




博士学位論文審査報告書

申請者氏名	ふりがな HUYNH VAN KHANG (フィン パン カン)
学位の種類	環境計画学専攻環境意匠研究部門
論文題目	THE FORMATION AND TRANSFORMATION OF CHAM MUSLIM VILLAGES AND TRADITIONAL HOUSING IN THE MEKONG DELTA
学籍番号	175001
学歴	2005・9 (入学) University of Architecture Ho Chi Minh City 2017・3 (卒業) Bachelor of Architecture Degree 2017・4 (入学) University of Shiga Prefecture
論文審査委員会	委員長 村上 修一 
	委員 ヒメネス ベルデホ ホアン ラモン 
	委員 金子 尚志 

学位論文の概要

17世紀以来、メコンデルタは、クメール族、ベト族、中国人、イスラム教系チャム族に代表される多くの民族のコミュニティが住む地域となっている。その結果、同じ土地において多様で独特の民族が互いに影響しながら、区別的に自らの文化的および宗教的個性を保持している。したがって、文化、社会、信念、建築に対するこうした集団の干渉や影響は明らかである。その意味で、メコンデルタにおけるイスラム教系チャム族コミュニティと彼らの建築の存在は、モスクの建物、川の隣にある木造の高床式家屋だけでなく、移住過程の歴史的な堆積物の結果であり、ベト族、クメール族、中国人など他の民族とイスラム世界との相互の結束の結果である。本研究は、イスラム教系チャム族の既存の村と伝統的な住居の歴史的な形成と変容を明らかにすることで、イスラム教系チャム族におけるメコンデルタの地域建築の個性と民族の多様性を研究することを目的としている。

著者はこの研究を歴史的文書に基づいており、2017年から2019年までの集中的な現地調査によって、村内の2,042戸と村の境界外にある506戸を含む2,548戸のチャム族の9村の現状を調査した。特に、既存する1,988のイスラム教系チャム族の住居と151の住居計画図のデータベースの記録と編集を行い、9つのイスラム教系チャム族の村とメコンデルタのアンザン省にある現存する古い民家の境界が記録された。都市部では、イスラム教系チャム族の村は、独特で、統一された構造的固有性を持つ川を基盤とする生活を続けている。すべての村には境界が定められ、またモスクがコミュニティの中心にある宗教的ランドマークとして位置付けられ、この地域でのイスラムの支配的な影響力が強調されている。さらに、イスラム教系チャム族の伝統的な家屋はイスラム教の原則に従っている。

これらの理由により、イスラム教系チャム族コミュニティの発展における伝統的な価値を維持し、ベトナムの民族建築のデータベースを補充するために、本研究は不可欠である。また、ベトナムのメコンデルタで起こっている急速な都市化の背景で、現地の文化的多様性を維持するための重要な基盤でもある。さらに、本研究は東南アジア地域のイスラム建築に関する新たな知見にも貢献する。

論文の審査結果

論文審査委員会は、HUYNH VAN KHANG が提出した学位申請論文が博士（環境科学）を授与するに値すると判定した。審査過程と審査結果の概要は以下の通りである。

令和元年度第 11 回環境科学研究会議において、申請者が提出した学位申請を受け、環境意匠研究部門の村上修一教授、ヒメネス ベルデホ ホアン ラモン准教授、および金子尚志准教授を委員とする論文審査委員会の設置が承認された。令和 2 年 5 月 12 日、同委員会において、学位申請論文の査読を行うとともに委員会会議を開催し論文内容を審査した。さらに同日、学位論文審査報告会において最後試験を実施し、試験終了後、委員会による学位審査を行った。

本論文では、メコンデルタにおけるチャム・ムスリム村と伝統的住居を研究対象として、その形成と変容を包括的に解明したものである。

第 2 章では、メコンデルタの 4 つの民族についての村落および伝統的な住居に関する比較研究を行った。3 年間に及ぶイスラム教系チャム族の村と伝統的な住宅に関する現地での調査は初めての試みであり、その独創性と今後の民族文化継承に寄与することにおいて評価できる。

第 3～4 章では、メコンデルタの民族的多様性と地域特性の問題について、メコンデルタ地域の 4 つの民族の文化、宗教、社会的特徴、信念に基づいた都市形成と伝統的な住宅類型を体系化することにより明らかにしている。調査の結果によると、メコンデルタのベト族、中国人、クメール族、イスラム教系チャム族の 4 つの民族は、異なる起源に由来する先住の少数民族ではないことが示され、結果としてメコンデルタの民族建築は土着的なものではなく、特に現在の急速な都市化において影響を受けやすく、混同されやすい可能性が高いことが考えられる。

第 5 章では、チャム族の集落の形成と変容についての特徴を明らかにしている。歴史的なプロセス、メコン川の地理、イスラムの宗教的影響に応じて、特有の形態を持っていることについて述べられている。約 2000 戸におよぶ対象住居の綿密な調査記録から、対称的でコンパクトなその集落の形態の独自性が示された。

第 6 章では、151 の伝統的な住居の詳細調査情報から、メコンデルタのイスラム教系チャム族のサン・ハウスは建築様式が統一されており、プライバシー、対称性、機能の階層というイスラム教の概念に沿った明確な空間構成を持っていることが示されている。その起源は、カンボジアのイスラム教系チャム族の住居の建築形態を模したものである。それらは 18 世紀半ばにメコンデルタに移住した後から現代まで、大きな変化を生じていない。何世紀もの間、民族集団の伝統的な住居は、現在に至るまで変化を被ることなく、そのアイデンティティを反映している。これらの歴史的建築物とその集落形成の過程が確認されることにより、今後のベトナムの民族文化の継承に寄与できることを期待する。

これらの研究成果の一部は、下記の学術論文（査読付）1 編により、公表されている。

HUYNH VAN KHANG, J. R. Jimenez Verdejo, 『FORMATION AND TRANSFORMATION OF CHAM MUSLIM VILLAGES AND TRADITIONAL HOUSING IN MEKONG DELTA』、日本建築学会計画系論文集、2020 年 4 月、第 85 巻、第 770 号。

本論文は、THE FORMATION AND TRANSFORMATION OF CHAM MUSLIM VILLAGES AND TRADITIONAL HOUSING IN THE MEKONG DELTA について、一定の知見を得たものである。これらの成果は、イスラム教系チャム族の村と住居の保存に向けた研究と実践の進展に重要な貢献をするものとする。

よって、論文審査委員会は、本論文について、博士（環境科学）の学位を受有するに値するものと認めた。

また、論文審査委員会は、令和2年5月12日の学位論文審査報告会において口頭試問による最終試験を実施した。試験の結果、HUYNH VAN KHANGは、最終試験に合格と判定した。

論文審査および最終試験の結果、論文審査委員会は、学位申請者のHUYNH VAN KHANGが、博士（環境科学）の学位を得る資格があると認める。